

2012年12月期 決算説明会

2013年2月13日
JUKI株式会社
取締役社長 清原 晃

Mind & Technology

JUKI
Mind & Technology

目次

第1部 2012年12月期(2012年度)業績の概要

- | | |
|-----------------|---|
| 1. 経営環境/市場規模と実績 | 3 |
| 2. 業績推移・配当 | 5 |
| 3. 経常利益増減要因 | 6 |
| 4. 主要財務項目推移 | 7 |
| 5. セグメント別業績推移 | 8 |

第2部 JUKI構造改革プランの概要

- | | |
|-------------------|----|
| 1. 環境認識と構造改革の目的 | 13 |
| 2. JUKI構造改革プランの概要 | 15 |
| 3. JUKI構造改革プランの効果 | 18 |
| 4. 推進体制 | 21 |
| 5. スケジュール | 22 |

第1部
2012年12月期(2012年度)
業績の概要

経営環境

- 欧州財政危機の長期化
- 新興国市場の経済成長鈍化
- 円高の長期化(1ドル=80円前後の水準)
- 中国での事業リスク顕在化
- グローバル競争は一段と厳しい

世界経済は2011年度より
更に減速

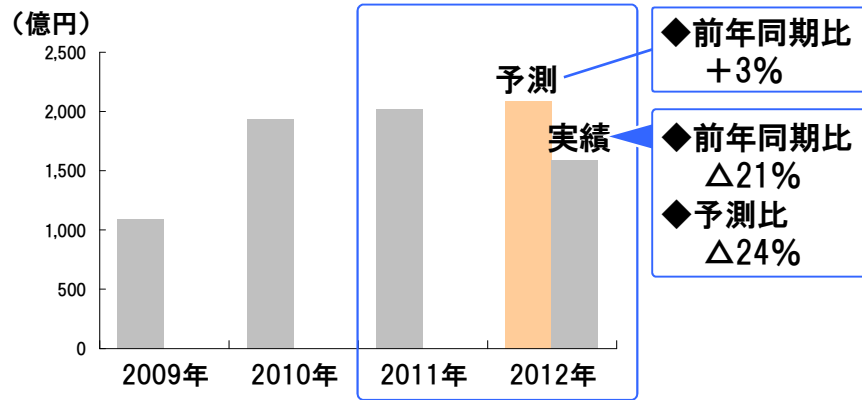
縫製工場や電子工場における設備投資が低調

工業用マシン、マウンタとも、予測を大幅に下回る
市場規模に縮小

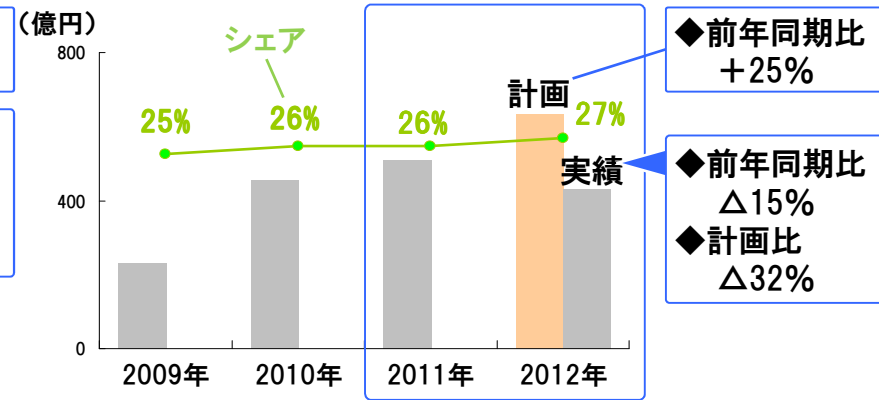
【工業用マシン[製品](除くパーツ等)】

市場規模は前年同期比△21%と大幅縮小。施策効果によりシェアはアップ

＜市場規模＞ ※データ: 自社推計



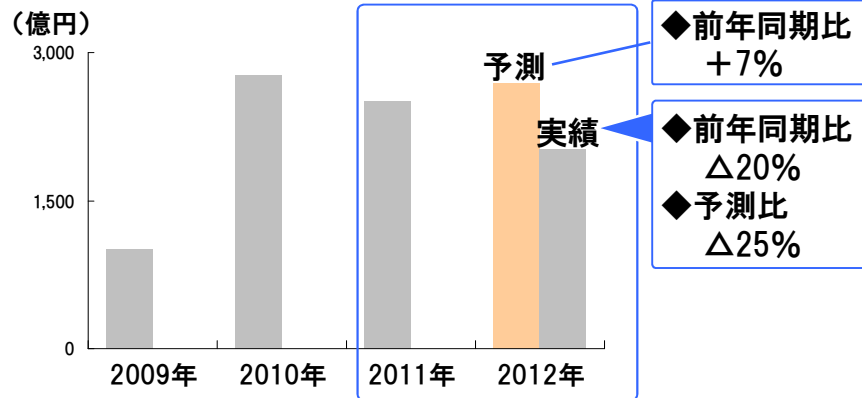
＜JUKIの売上高＞



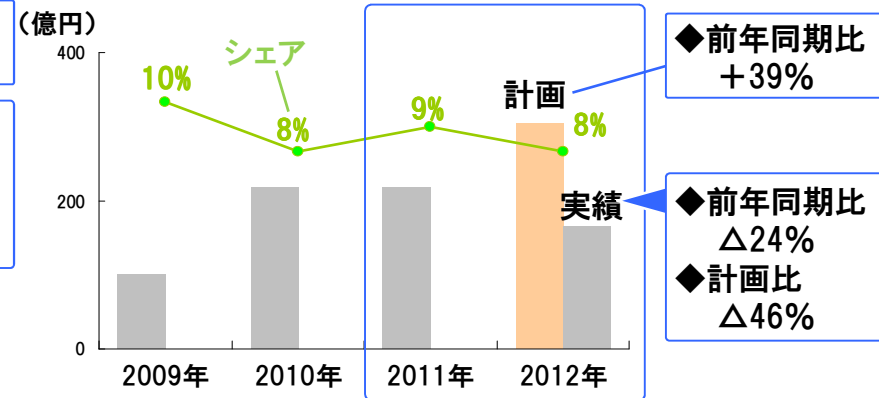
【マウンタ】

市場規模は前年同期比△20%と大幅縮小。市場の縮小以上に販売が落ち込みシェアはダウン

＜市場規模＞ ※データ: 自社推計



＜JUKIの売上高＞

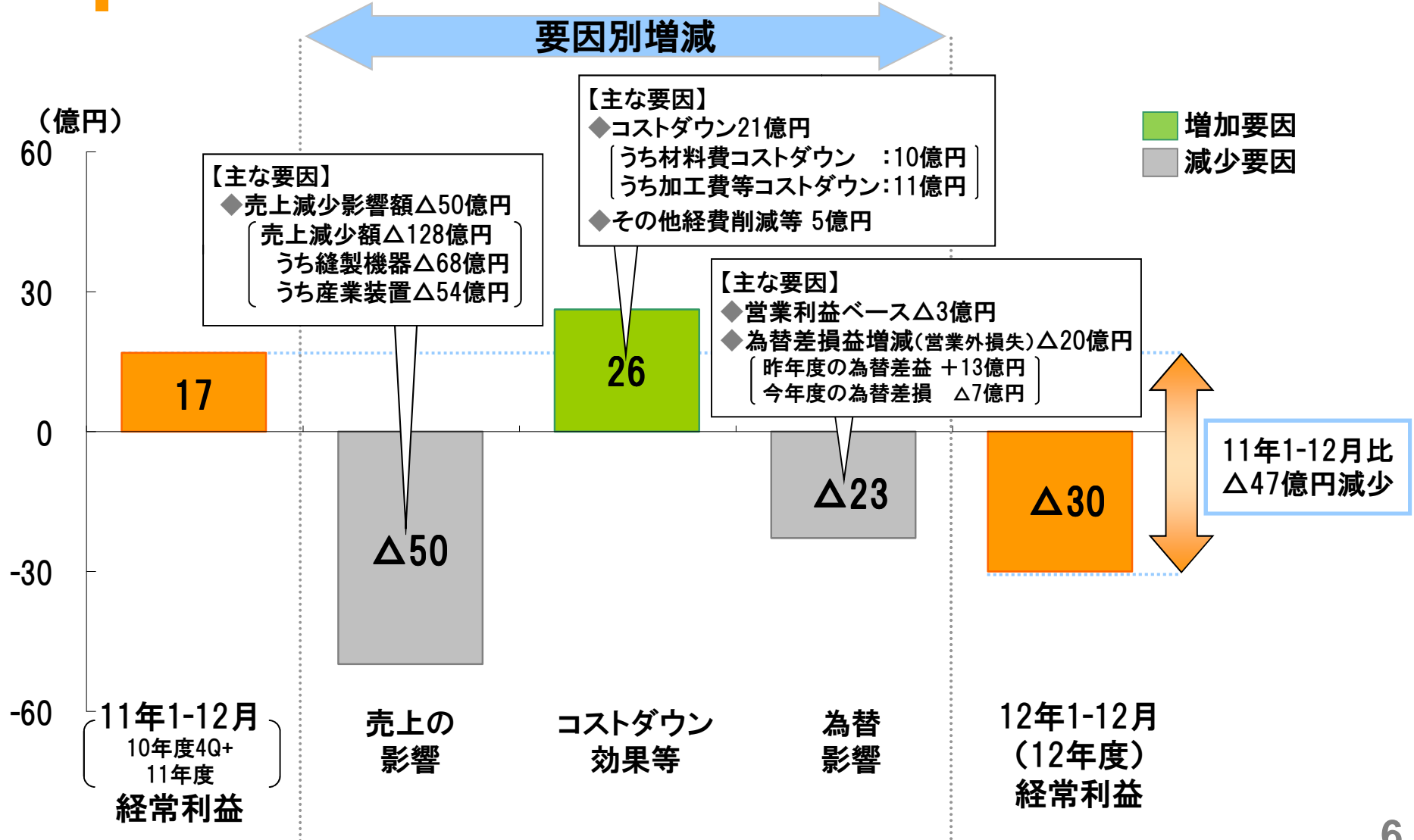


世界的な景気減速により設備投資需要が低調。円高や中国での事業リスク顕在化による販売影響等もあり、売上高は前年同期比15%減収。
営業・経常・当期純利益とも3期ぶりの赤字

(百万円)

	08/3期 (07年度)	09/3期 (08年度)	10/3期 (09年度)	11/3期 (10年度)	11/12期 (11年度)	12/12期 (12年度) [A]	前年同期	前年同期比 増減額 [A-B] (増減率)
					決算期変更 のため 9ヵ月決算		10年度4Q +11年度 [B]	
					11年4-12月	12年1-12月	11年1-12月	
売上高	130,351	77,832	56,970	89,596	65,326	75,831	88,649	△12,818 (△14.5%)
営業利益	12,352	△4,975	△11,187	785	815	△1,451	1,181	△2,632
経常利益	11,516	△5,259	△11,102	1,174	1,374	△2,996	1,685	△4,681
当期純利益	4,126	△9,347	△11,233	2,467	726	△8,342	2,081	△10,423
配当	10円/株	5円/株	0円/株	3円/株	3円/株	0円/株	—	—
為替 レート	ドル 113円 ユーロ 161円	100円 142円	92円 129円	84円 111円	79円 111円	80円 103円	80円 111円	0円 △8円

コストダウン効果は21億円あったが、売上減少及び為替影響により大幅減益



純資産は、繰延税金資産の回収可能性を慎重に検討した結果、52億円取り崩したこと等により74億円減少

	11/12期末 (11年度末)	12/12期末 (12年度末)	(百万円) 増減額
総資産	114,263	110,341	△3,922
純資産	12,361	4,934	※ △7,427
自己資本比率	10.6%	4.2%	△6.4%
売上債権	20,978	21,193	215
在庫	42,151	43,592	1,441
仕入債務	14,427	10,112	△4,315
有利子負債	73,829	80,172	6,343

※【純資産の減少額△74億円の主要内訳】

(1)利益剰余金△90億円：

①当期純利益△83億円(繰延税金資産取り崩し△52億円、税引前利益△26億円、税金△4億円)

②配当金△4億円、③海外子会社連結化△3億円

(2)為替換算調整勘定+14億円、(3)その他+2億円

縫製機器、産業装置とも設備投資需要の減少等により、前年同期比減収

(百万円)

	08/3期 (07年度)	09/3期 (08年度)	10/3期 (09年度)	11/3期 (10年度)	11/12期 (11年度)	12/12期 (12年度) [A]	前年同期	前年同期比 増減額 [A-B] (増減率)
					決算期変更 のため 9ヵ月決算		10年度4Q +11年度 [B]	
					11年4-12月	12年1-12月	11年1-12月	
縫製機器	82,608	46,940	38,516	60,267	42,460	52,424	59,270	△6,846 (△11.5%)
産業装置	29,812	19,960	12,040	22,437	17,210	16,480	21,854	△5,374 (△24.6%)
その他	17,929	10,930	6,413	6,891	5,655	6,926	7,524	△598 (△7.9%)
合計	130,351	77,832	56,970	89,596	65,326	75,831	88,649	△12,818 (△14.5%)

縫製機器、産業装置とも売上の減少等により、前年同期比大幅減益

(百万円)

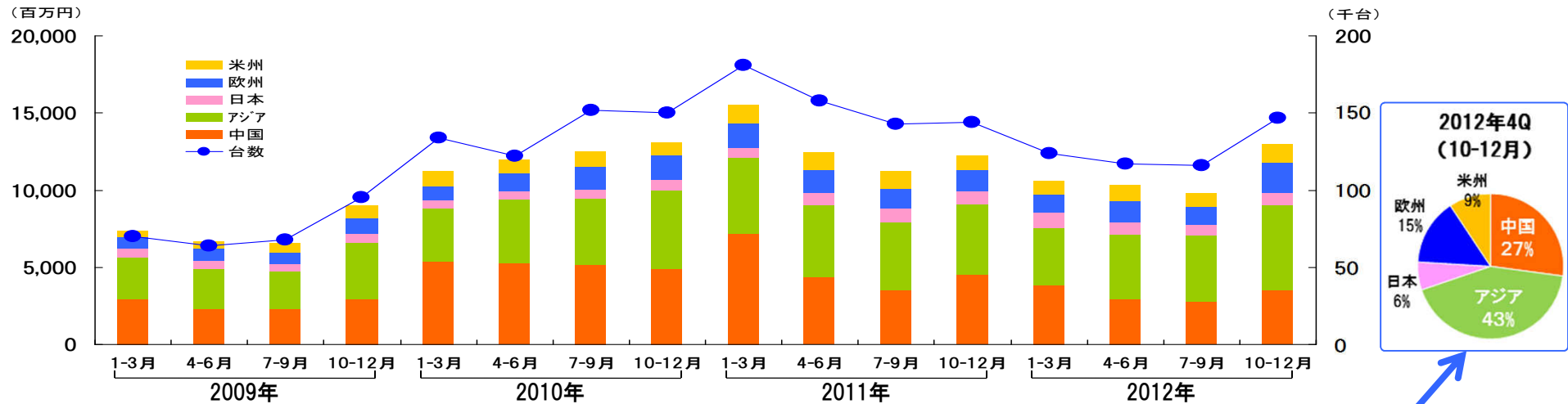
	08/3期 (07年度)	09/3期 (08年度)	10/3期 (09年度)	11/3期 (10年度)	11/12期 (11年度)	12/12期 (12年度) [A]	前年同期	前年同期比 増減額 [A-B]
					決算期変更 のため 9ヵ月決算		10年度4Q +11年度 [B]	
					11年4-12月	12年1-12月	11年1-12月	
縫製機器	12,317	△2,306	△5,722	1,688	2,101	△503	2,818	△3,321
産業装置	1,380	△2,536	△3,503	751	527	△1,029	794	△1,823
その他	142	304	△13	59	330	333	△188	521
調整額	△2,324	△720	△1,863	△1,324	△1,584	△1,796	△1,738	△58
合計	11,516	△5,259	△11,102	1,174	1,374	△2,996	1,685	△4,681

(参考①)

セグメント別業績 地域別売上高(縫製機器)

- 中国 ◆縫製品の欧米向け輸出が減少
- ◆縫製工場の東南アジア地域への産地移動の影響など } ⇒ 設備投資需要が減少
- 中国以外の地域 : 世界経済の減速などの影響を受け設備投資需要が低迷
- ノンアパレル(自動車シートやスポーツシューズなど)が徐々に増加
- 新製品投入の効果も下期に現れてきた

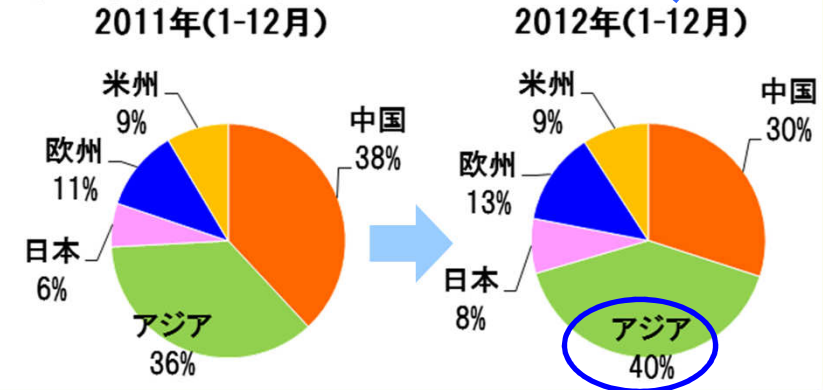
【縫製機器:工業用マシン地域別[製品]売上高推移】



【売上高:前年同期比較】

	2011年 (1-12月)	2012年 (1-12月)	増減額	増減率
中国	196	131	△65	△33%
アジア	186	177	△9	△5%
日本	31	33	2	6%
欧州	58	56	△2	△3%
米州	44	40	△4	△9%
合計	515	437	△78	△15%

【売上高構成比率】



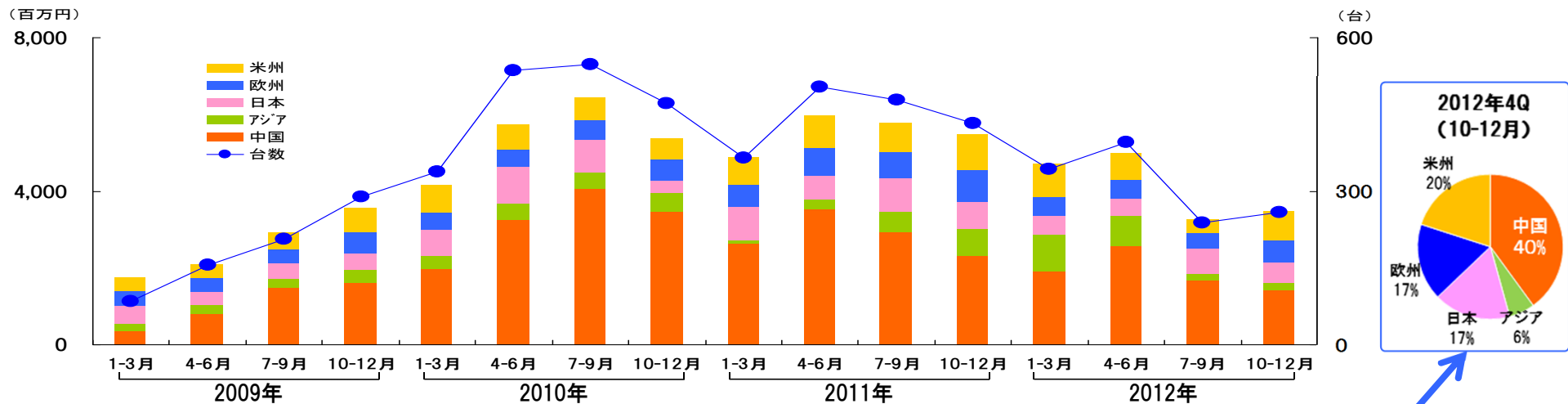
(注)月次販売数字を集計したものであり決算数字とは合致しない

(参考②)

セグメント別業績 地域別売上高(産業装置)

- 中国：特に下期に入り設備投資抑制などの影響が顕著
- 欧米：景気減速などの影響大
- 海外企業の台頭により競争激化

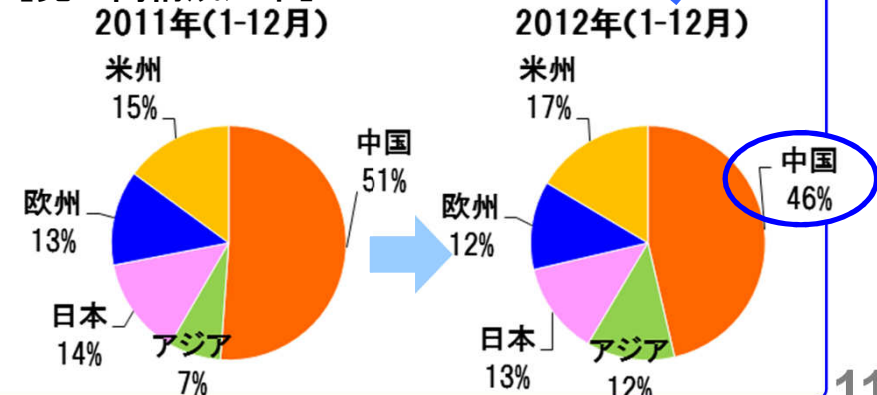
【産業装置：地域別売上高推移】



【売上高：前年同期比較】

	2011年 (1-12月)	2012年 (1-12月)	増減額	増減率
中国	113	76	△37	△33%
アジア	16	20	4	25%
日本	30	22	△8	△27%
欧州	29	20	△9	△31%
米州	33	27	△6	△18%
合計	221	165	△56	△25%

【売上高構成比率】



(注)月次販売数字を集計したものであり決算数字とは合致しない

第2部

JUKI構造改革プランの概要

環境認識

- 世界経済の減速
- 中国の経済成長の鈍化
- 円安基調にあるも不確実
- グローバルの競争環境は一段と厳しさを増している

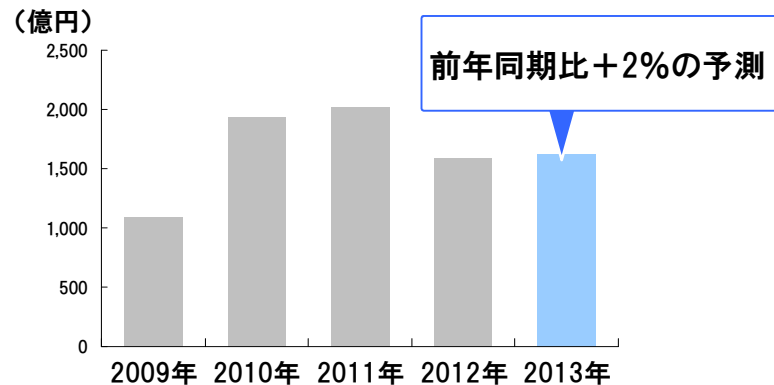
国際政治や世界経済の
構造問題は当面続く

➡ **厳しい事業環境は今後も続く**

【工業用マシンとマウンタの市場規模】

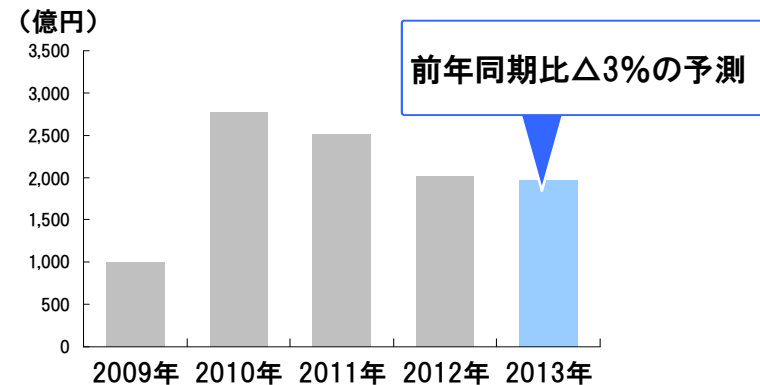
《工業用マシン[製品]》

＜市場規模＞ ※データ: 自社推計



《マウンタ》

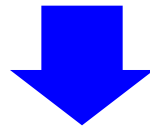
＜市場規模＞ ※データ: 自社推計



目的

厳しい事業環境においても持続的な成長を可能とする

〔 現行の「飛躍への戦略的プラン-中期経営計画
(2011-2013年度)」の見直しを行い、各事業について
早期に構造改革を進め、収益力・財務体質強化を図る 〕

**JUKI構造改革プラン**

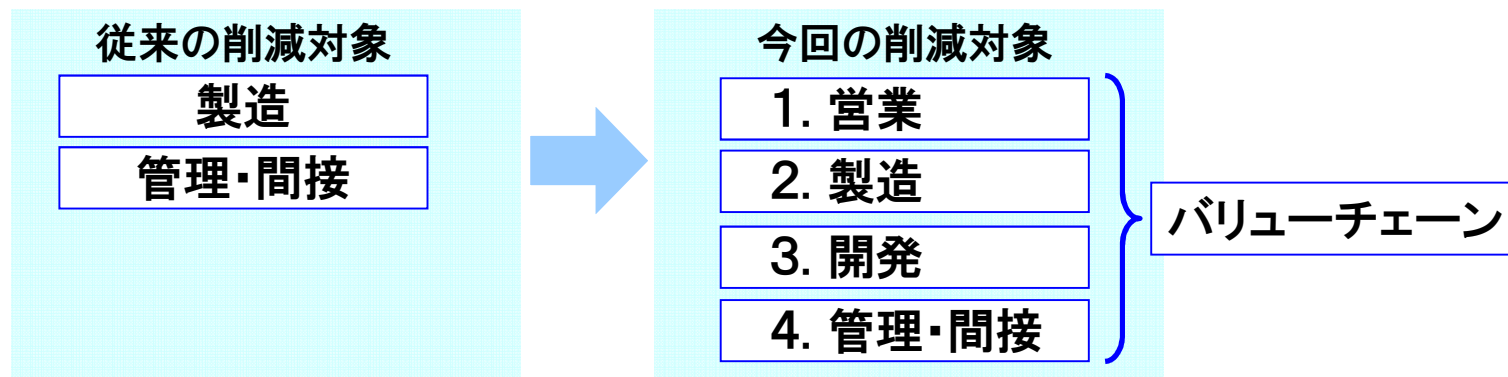
I. バリューチェーン
構造改革
〔コスト削減施策〕

II. 事業構造改革
〔増収増益施策〕

I. バリューチェーン構造改革 [コスト削減施策]

損益分岐点売上高の引き下げにより、2012年度と同水準の売上高でも黒字を確保できる体制の構築を図る

■4つの業務プロセス(バリューチェーン)において、聖域なき固定費・変動費の削減



1. 営業固定費の削減
2. 製造原価の低減(トータルコストダウン)
3. 開発の効率化
4. 管理間接部門のスリム化

◆上記施策を受けた人事施策の実施

損益分岐点売上高
の引き下げ

II. 事業構造改革 [増収増益施策]

トップブランドを有するグローバル企業として更に成長していくための
強い事業基盤の構築を図る

■マーケット戦略の選択と集中により、縫製機器事業、産業装置事業とも
経営資源を成長市場・得意領域に集中投入

1. 縫製機器事業: 重点市場と事業領域の拡大
2. 産業装置事業: 得意領域への重点化と
事業領域の拡大
3. 重点市場への販売体カシフト

強い事業基盤の
構築

縫製機器事業

重点市場と事業領域の拡大

1 重点市場

東南アジア・南アジア等の成長する新興国へ体制をシフト

2 重点事業領域

ノンアパレル、ニット、パーツ、家庭用ミシンを強化

布帛は自動機の営業を徹底

大手顧客の特注開発業務にも注力(事業領域拡大)

重点市場への販売体カシフト

アライアンスによる事業領域の拡大

産業装置事業

得意領域への重点化と事業領域の拡大

1 得意領域

汎用ライン等に特化(LED市場の攻略等)

チップライン

2 事業領域拡大

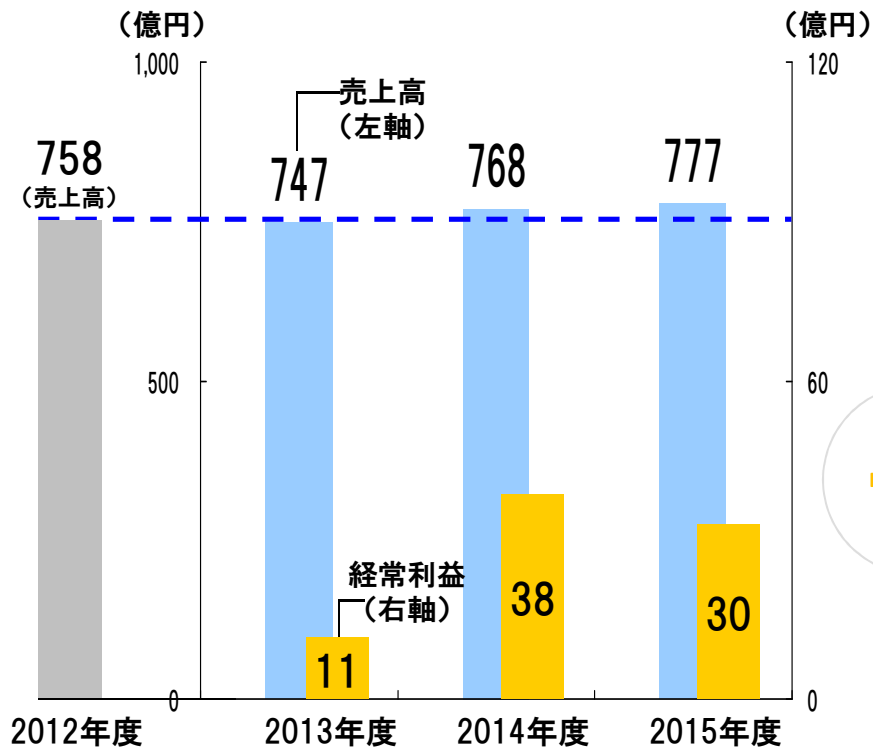
省人化・省力化市場での販売展開

重点市場の販売体制強化
(代理店体制の再構築)

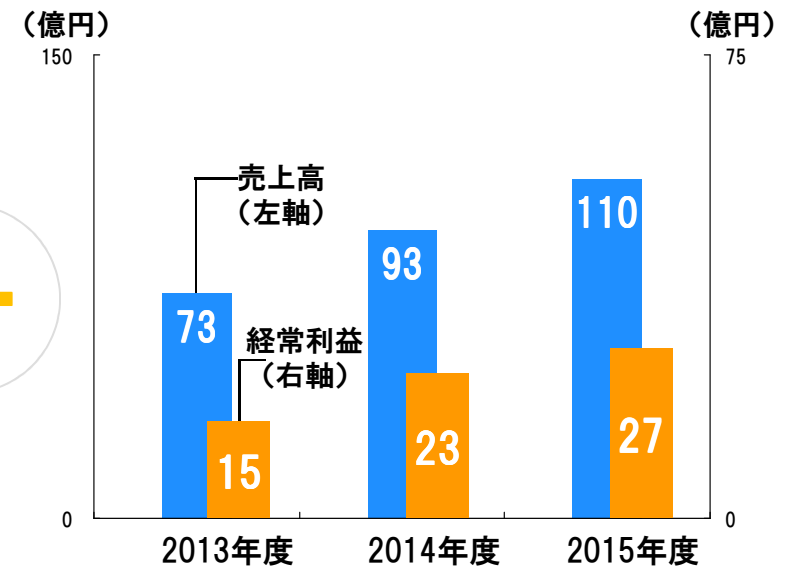
アライアンスによる事業領域の拡大

増収増益施策を実施

【バリューチェーン構造改革の効果反映後】



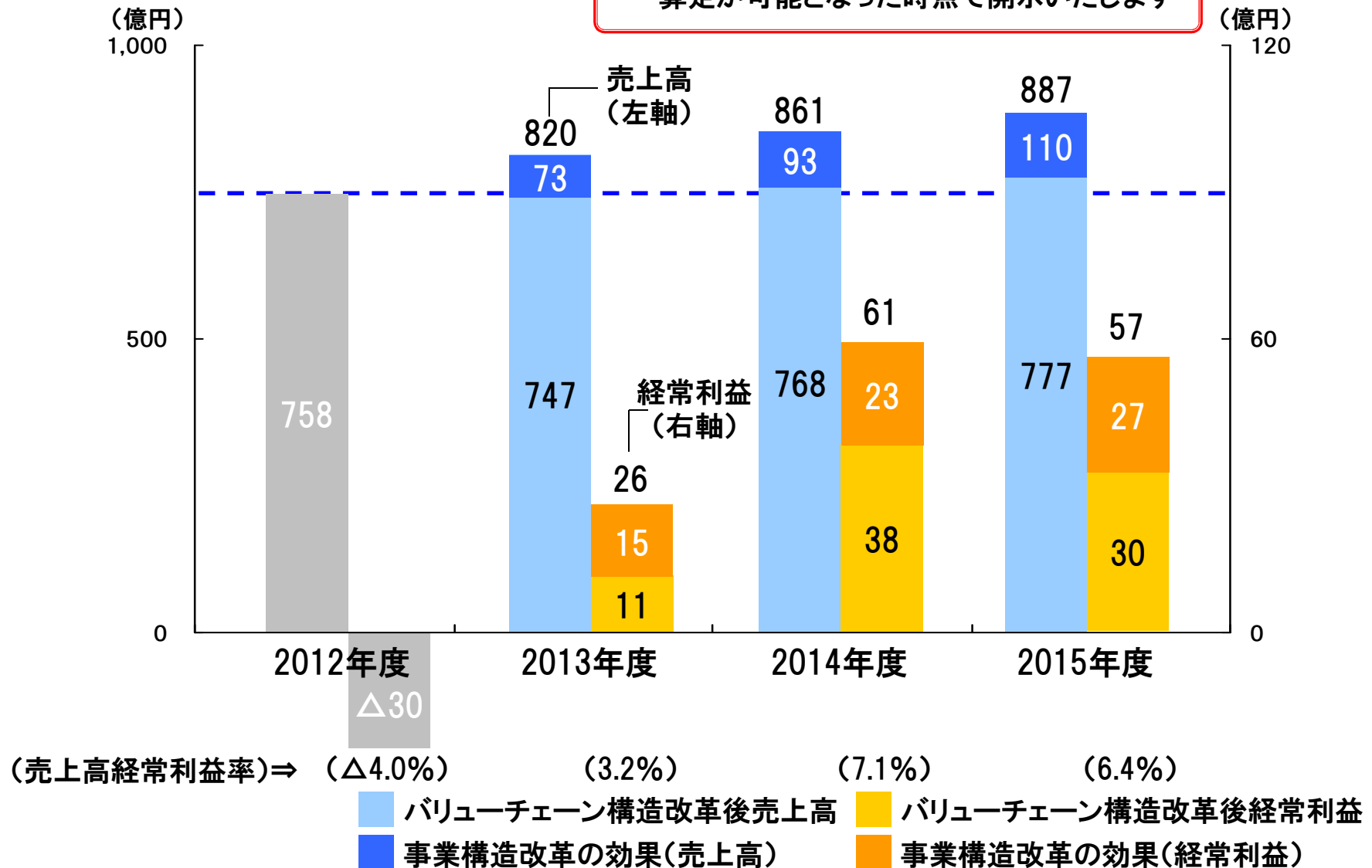
【事業構造改革の効果】



◆2012年度と同水準の売上高でも、バリューチェーン構造改革後経常利益は、2013年度に11億円 (2014年度以降は30億円以上を達成する計画)

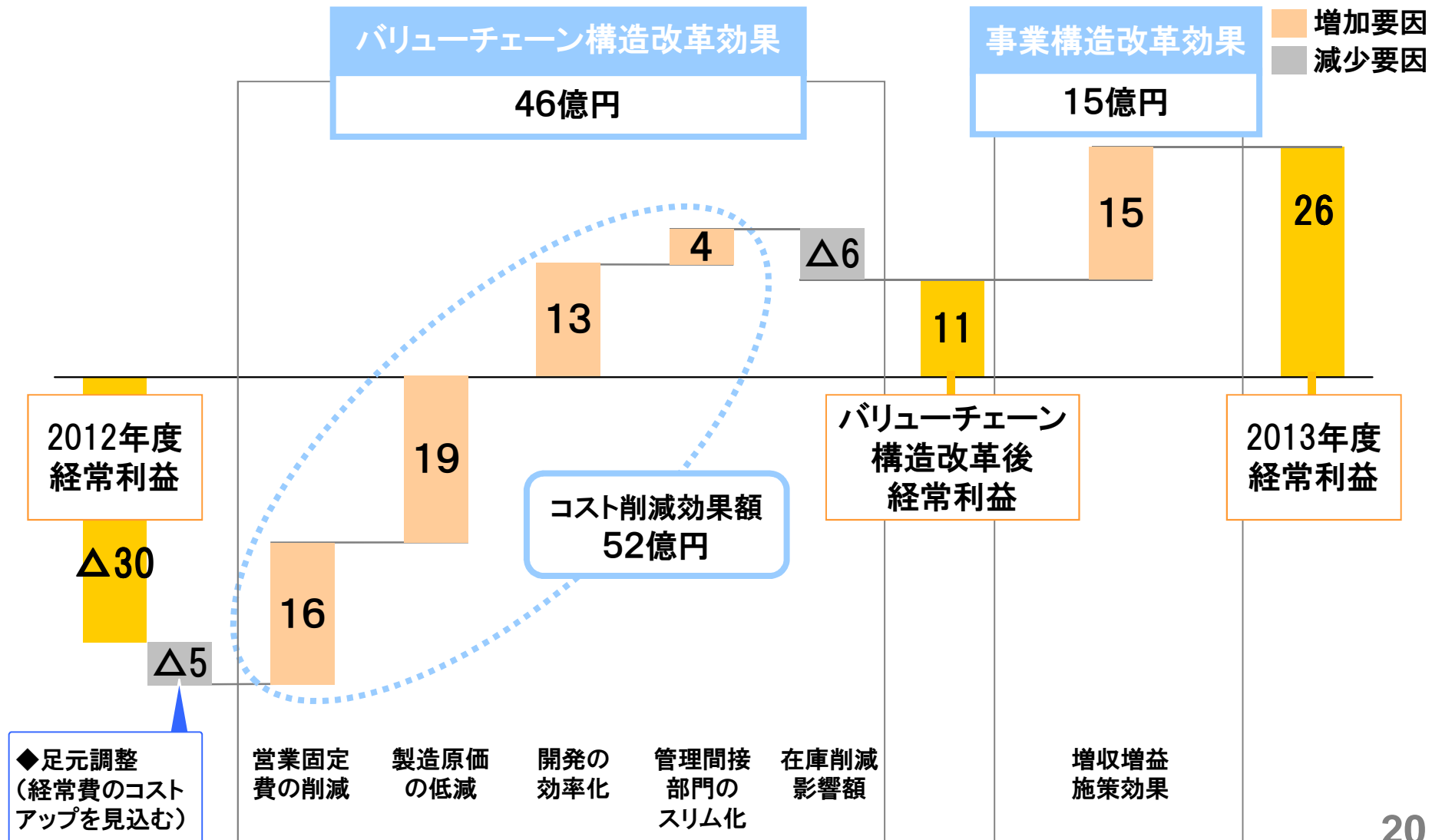
【2つの構造改革の効果反映後】

※2013年度の連結業績予想は未定であり、算定が可能となった時点で開示いたします



【経常利益増減(2013年度)】

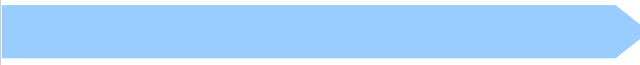
(単位:億円)



【BS、CF項目】

※2012年度のBSは、期末為替レート

(億円)

	2012年度 実績※	2013年度	2014年度	2015年度
在庫 (在庫回転月数)	435 (6.9ヵ月)	384 (5.6ヵ月)	380 (5.3ヵ月)	394 (5.3ヵ月)
有利子負債	802	744	723	684
フリーキャッシュ フロー	△16	58	21	39
自己資本 (自己資本比率)	49 (4%)			150 (14%)

◆毎期の利益の積み上げ
ベース

【キャッシュフロー重視の財務戦略】

■ 販売会社、代理店の在庫管理の強化

◆販売拠点での在庫管理の徹底

◆各拠点別の販売情報をタイムリーに工場での生産に反映し、在庫を削減することでキャッシュフローを改善

⇒キャッシュフロー改善タスクフォース(売掛金、在庫)による推進体制強化

		2013年 1Q	2Q	3Q~4Q
バリューチェーン 構造改革	1.営業固定費の削減	→		
	2.製造原価の低減	→		
	3.開発の効率化	→		
	4.管理間接部門のスリム化	→		
事業構造改革	1.重点市場と事業領域の拡大	→		
	2.得意領域への重点化と 事業領域の拡大	→		
	3.重点市場への販売体カシフト	→		
雇用調整等	★希望退職の募集・実施 募集2月実施/3月末退職予定		★賃金調整実施	
関連する人事施策			★人事制度の見直し	

本資料における業績予想及び将来の予想等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実な要素を含んでおります。従いまして、実際の業績等が様々な要因により異なる可能性がありますことをご了承ください。

JUKI株式会社

お問合せ先： 総務部 広報・IRグループ 担当：寒川^{そう がわ}

TEL :042-357-2398 FAX :042-357-2399

ホームページURL： <http://www.juki.co.jp/>